

PLATFORM FOR BUS

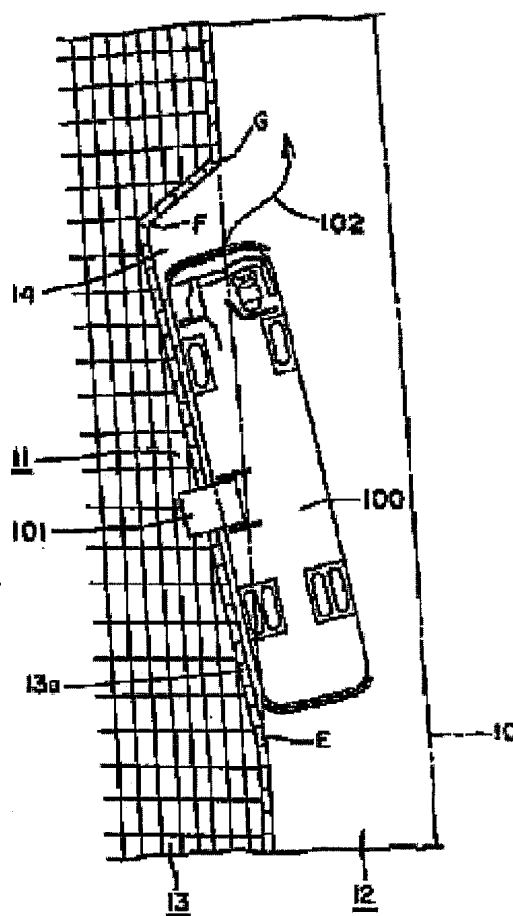
Patent number:	JP11209926
Publication date:	1999-08-03
Inventor:	TANAKA TATSUhide
Applicant:	HINO AUTO BODY LTD
Classification:	
- international:	E01F1/00
- european:	
Application number:	JP19980042772 19980120
Priority number(s):	

Report a data error here

Abstract of JP11209926

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a platform for a bus where the bus can be simply stopped in parallel to an edge stone and near it

SOLUTION: A platform for a bus is formed by notching a sidewalk 13 a step higher than a road 12. The side walk 13 is notched as long as about the length of one bus obliquely to a center line 10 and in continuance with the road 12. In this case, the platform 11 is provided by notching a part 14 (a notch 14) of the side walk 13 a step higher than the road 12, and the notched part 14 shapes an about triangle to mutually connect points of E, F and G. In addition, edge stones are arranged at the edge of the side walk 13 to distinguish the platform from the road 12.



Data supplied from the **esp@cenet** database - Patent Abstracts of Japan

RESULT LIST

1 result found in the Patent Abstracts of Japan database for:

JP11209926 as the publication number

(Results are sorted by date of upload in database)

1 PLATFORM FOR BUS

Inventor: TANAKA TATSUhide

Applicant: HINO AUTO BODY LTD

EC:

IPC:

Publication info: **JP11209926** - 1999-08-03

Data supplied from the **esp@cenet** database - Patent Abstracts of Japan

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-209926

(43) 公開日 平成11年(1999) 8月3日

(51) Int.Cl.⁵

識別記号

F I

E 0 1 F 1/00

E 0 1 F 1/00

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平10-42772

(22) 出願日 平成10年(1998) 1月20日

(71) 出願人 000232911

日野車体工業株式会社

神奈川県横浜市鶴見区尻手 1-1-25

(72) 発明者 田中 辰秀

神奈川県横浜市鶴見区尻手 1丁目 1番25号

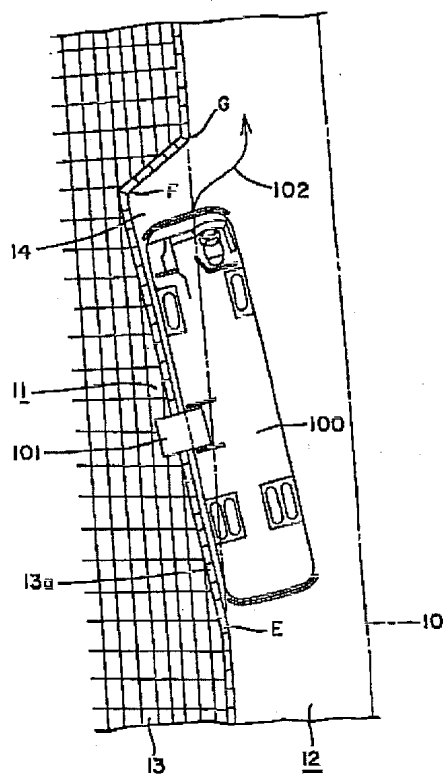
日野車体工業株式会社内

(54) 【発明の名称】 バスのプラットホーム

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 バスが簡単に縁石と平行で、かつ接近して停車することができるようにしたバスのプラットホームを提供する。

【解決手段】 道路12よりも一段高くなった歩道13を切り欠いて作られるバスのプラットホーム11であって、センターライン10に対して斜めに道路12から連続して略バス一台分の長さだけ歩道13を切り欠いてなる構成とした。すなわち、このプラットホーム11は、道路12よりも一段高くなった歩道13の一部14(切り欠き14)を切り欠くようにして設けられており、その切り欠き14はE、F、G点とを結んだ略三角形をした切り欠き形状のようになっている。また、歩道13の端には、道路12と区別をするのに縁石13aが配設されている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 道路よりも一段高くなった歩道を切り欠いて作られるバスのプラットホームにおいて、センターラインに対して斜めに道路から連続して略バス一台分の長さだけ歩道を切り欠いてなることを特徴とするバスのプラットホーム。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【発明の属する技術分野】本発明は、バスを停車させる目的で、道路よりも一段高くなった歩道を切り欠いて作られるバスのプラットホームに関するものである。

【0002】

【従来の技術】図2は従来における歩道を切り欠いて作られたバスのプラットホームの一例を示すものである。図2において、このプラットホーム11は、道路12よりも一段高くなった歩道13の一部14（以下、「切り欠き14」と言う）を切り欠くようにして設けられており、その切り欠き14は図2中のA、B、C、D点とを結んだ略台形に形成されている。そして、バス100は、切り欠き14内に回り込むように進入してプラットホーム11に停車する。このため、点Bと点Cを結んだ箇所と平行に停車するのが難しく、図2に示すように縁石13aよりも離れた位置に停車されているのが現状である。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】上述したように、従来のプラットホーム11を形成している切り欠き14の形状の場合では、バス100が縁石13aと平行に、かつ縁石13aに接近して停車するのが難しい。このため、場合によってはバスの乗降者は一度車道に降りる必要がある。しかも縁石13aとプラットホーム11の間には水が溜まっていたりする場合もあり、履き物を濡らしたりする不都合が生じることと少なくない。また、今日では、車椅子利用者のためにステップスロープ板101を引き出して使用できる構造のバスもあるが、縁石13aに近づいて停車していないと、ステップスロープ板101が縁石13aに届かないことがあったりして、使い勝手が悪い場合もある。

【0004】本発明は、上記問題点を鑑みてなされたものであり、その目的はバスが簡単に縁石と平行で、かつ接近して停車することができるようにしたバスのプラットホームを提供することにある。さらに、他の目的は、以下に説明する内容の中で順次明らかにして行く。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために本発明においては、道路よりも一段高くなった歩道を切り欠いて作られるバスのプラットホームにおいて、センターラインに対して斜めに道路から連続して略バス一台分の長さだけ歩道を切り欠いてなる構成としたものである。

【0006】これによれば、バスは道路から斜めに真っ直ぐ進入するだけで縁石と平行で、かつ接近して停車することができる。これにより、バスに乗り降りする際、車道に降りなくて済むとともに、ステップスロープ板も歩道上に正しく掛けて有効に活用することができる。

【0007】

【発明の実施の形態】以下、本発明の好適な実施形態を添付図面に基づいて詳細に説明する。なお、以下に述べる実施形態は、本発明の好適な具体例であるから技術的に好ましい種々の限定が付されているが、本発明の範囲は、以下の説明において特に本発明を限定する旨の記載がない限り、これらの実施形態に限られるものではないものである。

【0008】図1は本発明の一実施形態を示すものである。図1において図2と同一符号を付したものは図1と同一のものを示している。図1において、このプラットホーム11は、道路12よりも一段高くなった歩道13の一部14（切り欠き14）を切り欠くようにして設けられており、その切り欠き14は図1中のE、F、G点とを結んだ略三角形をした切り欠き形状のようになっている。また、歩道13の端には、道路12と区別するのに縁石13aが配設されている。

【0009】さらに詳述すると、切り欠き14を形成しているE点とF点を結んだ箇所は、センターライン10に対して斜めに道路12から連続して切り欠いてなる部分として作られており、その長さは少なくとも略バス一台分確保されている。一方、E点とF点を結んだ箇所は、鈍角で車道（道路12）に通じる部分として形成されている。なお、E点とF点を結んだ箇所の長さ及びセンターライン10に対する角度は、歩道13の幅や道路12の幅を考慮して設けられる。ここで重要な点は、バス100の停車時に、バス100の後部が切り欠き14より大きく道路12上にはみ出して停車し、道路12を走行する他の車両の妨げとならないようにすることである。

【0010】このように形成したプラットホーム11を使用した場合では、バス100は道路12からE点とF点を結ぶ縁石13aに沿って斜めに真っ直ぐ進入し、E点とF点を結ぶ縁石13aに沿って停車することができる。すなわち、縁石13aと平行で、かつ接近して停車することができる。これにより、バス100に乗り降りする際、道路12（切り欠き14の部分）に降りなくて済むとともに、ステップスロープ板101も歩道13の上に正しく掛け渡して有効に活用することができる。また、再び発車する場合は、図1中に矢印102で示す方向に動いて発車することができる。

【0011】

【発明の効果】本発明は、以上のように構成されているため、バスはセンターラインに対して斜めに真っ直ぐ進入し、縁石と平行で、かつ接近して停車することができ

る。これにより、バスに乗り降りする際、乗降客は車道に降りなくて済むとともに、ステップスロープ板も歩道の上に正しく掛け渡して有効に活用することができる等の効果が期待できる。

【図面の簡単な説明】

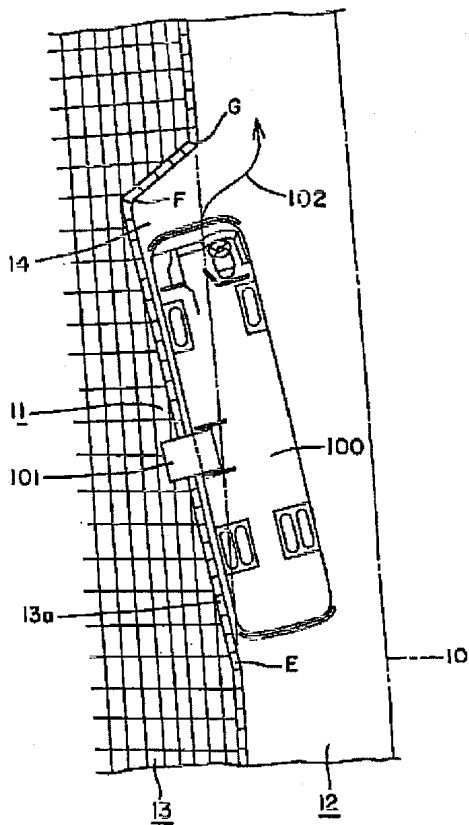
【図1】本発明の一実施形態を示す図である。

【図2】従来の一例を示す図である。

【符号の説明】

10…センターライン、11…プラットホーム、12…道路、13…歩道、13a…縁石、14…切り欠き、100…バス。

【図1】



【図2】

